

今後の活動に向けて

地域共創センターは、本学の地域貢献を担う中心的な組織であり、「地域調査研究部門」「地域教育活動部門」「アーカイブ部門」の3部門を有しています。

「地域調査研究部門」では、地域の課題に対応する様々な調査・研究を実施しており、今年度は下関フグを活用したインバウンド消費活性化に関する調査・研究などを行ってきました。「地域教育活動部門」では、地域の皆様を対象として市民大学テーマ講座・公開講座などの教育プログラムを実施しており、地域活性化に繋がる講座を企画しています。「アーカイブ部門」では、下関を代表する水産資源の史資料を収集・保管している鯨資料室・ふく資料室を設置、関連する学術シンポジウムを開催しています。来年度においても、地域貢献に関わる様々な調査・研究・講座を行っていききたいと思います。地域の皆様の積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

地域共創センター 副センター長 松本 義之

Information 地域調査研究部門

1. 地域共創研究

■本学教員から企画を募集し、テーマなどを審査して採択しています。その成果は成果報告会で公開されるとともに、定期刊行物『地域共創センター年報』に論文として掲載され、また山口県大学共同リポジトリ『維新』にてWeb公開されます。

2. 関門地域共同研究

■北九州市立大学との共同研究です。行政区間を超えた「関門一体」を研究対象にする、というユニークな共同研究です。両市と双方の市立大学の思惑が一致してこの研究会の結成となりました。必要に応じて地元や近隣から委嘱研究員を招聘しています。毎年度、その成果を年刊『関門地域研究』として公刊するとともに、成果報告会を開催しています。

3. 国際共同研究

■旧産業文化研究所時代には、本学と青島大学にて学術共同研究を実施していました。現在では海外提携校との共同研究の進め方を検討しています。

4. 自主調査研究

■センター発足にあたり、調査研究部門のスタッフは地域調査研究のコーディネーター集団に衣替えしました。コーディネーターが企画し、調査研究プロジェクトを提案します。調査研究スタッフを編成して、調査研究プロジェクトの進行を補佐します。

5. 受託調査研究

■地域課題について調査研究の依頼があれば、コーディネーター集団が始動します。また、プロジェクト化の可能性を図り、対応いたします。

6. 自主資料収集

■さまざまな発行物や下関市内商工会文書等の資料収集を進めていきます。

Information 地域教育活動部門

2019年度開講予定の講座です。企画が出来次第、ご案内します。

市民大学

●公開講座 ●開放授業 ・教養総合

●出前講座

スケジュールの詳細は決定次第ホームページでお知らせします。

Information アーカイブ部門

地元下関の産業、文化、歴史などに関する史資料の収集、保管、公開をすることで地域貢献をしています。特徴的なのは下関を代表する水産資源である、鯨やふぐの資料を集めた鯨資料室ふく資料室を設置していることです。事業者や個人から寄贈していただいた貴重な資料や購入した関連書籍を公開したり、かつて捕鯨に携わった方から聞き取り調査を行いそれを映像化するなど、時の流れとともに散逸していく資料を収集し、地元の方にも余り知られていない情報を留め、後世に残していくこと。それがアーカイブ部門の目的です。今後も様々な情報をシンポジウムや広報誌などで発信していきながら、地域に貢献していきます。



鯨のくーちゃんが、資料室の資料等を紹介する「くーちゃんの部屋」をWebで公開しています。以下のURLからご覧いただけます。

http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/chiikikyoso/archive_kuchan.html

出版物のご案内



地域共創センター年報 Vol.11



関門地域研究 Vol.27



地域共創センターニュースレター Vol.10



資料室だより Vol.7

スタッフ紹介

□地域調査研究部門 研究員

佐藤 隆 部門長
西戸 隆義
横山 博司
櫻木 晋一

□地域教育活動部門 コーディネーター

松本 義之 部門長
素川 博司
菅 正史
重田 美咲

□アーカイブ部門 研究員

濱田 英嗣 部門長
森 祐司

地域共創センター
ニュースレター

発行◆2019年3月31日 発行◆下関市立大学附属地域共創センター(本館II棟2階)
〒751-8510 山口県下関市大学町二丁目1-1 MAIL◆chiikikyoso@shimonoseki-cu.ac.jp
TEL◆083-254-8613 FAX◆083-253-1622 URL◆https://www.shimonoseki-cu.ac.jp

地域共創センターニュースレター

2019

Vol.11

下関市立大学附属地域共創センターは、大学人(法人職員と学生)と地域の方々との協働で地域資産を掘り起こし、地域課題を見出して、その課題解決に取り組むことを目指します。

あいさつ

世界各国の中で、実は日本(人)は自分たちが住む「地域・地方」を維持・存続する意識が比較的低い民族ではないか、と考えている。例えば、アメリカでは巨大スーパーといわれているウォルマートが地方に進出する際に、住民による進出反対運動が自発的に誕生し、場合によっては住民投票や裁判沙汰になることも珍しくない。一方、日本では大手スーパーの地方進出はこれまで利害対立者の商店街店主たちが反対を唱えることはあっても、地域住民が自分たちの生活が壊されるとして反対阻止を声高に叫ぶことはほとんどなかった。

つまり、日本人は情緒的に「地域・地方は大事」と口にするけれど、体を張ってでもこれまでの地域・地方の生活を守る、という意味は弱いのではないか。自然が豊かで、自然発生的に地域(コミュニティ)を形成した日本と、移民国家として人工的にコミュニティを努力して形成してきたアメリカ、陸続きで様々な民族的侵略が繰り返された欧州など、地域コミュニティを形成・維持する地域住民のバックグラウンドが違うのかもしれない。

地域共創センターの重要な役割の一つは、地域住民、行政などと連携して、生活の場である地方・地域を維持・活性化することである。市内の「まちづくり協議会」などとの連携も地域共創センターの果たす役割である。しかし、上記のことに関連して、地域住民や行政等とどの程度の関係性を築いていくのか、大学による地域貢献要請がさらに高まる中で、しかし前のめりになるのではなく、成果を達成するためお互いの距離感を見定めるスタンスが問われていると思う。

下関市立大学附属地域共創センター
センター長 濱田 英嗣

公立大学法人
下関市立大学
Shimonoseki City University

Shimonoseki City University Institute for Collaborative Community Development Newsletter

●市民大学公開講座

《Discussing the News》(全6回 火曜日)
日時：5月22日～6月26日 18:00～19:30
講師：ポール コレット 特任教員

《粉飾決算の動機とメカニズム》(全1回 水曜日)
日時：5月30日 18:30～20:00
講師：足立 俊輔 准教授

《ストレス社会を生き抜くために》(全1回 水曜日)
日時：6月6日 18:30～20:00
講師：横山 博司 教授

《気候変動緩和の国際枠組の到達点》(全1回 水曜日)
日時：6月27日 18:30～20:00
講師：菅 正史 准教授

《先端技術と人間・社会・自然の変化》(全1回 木曜日)
日時：7月12日 18:10～19:40
講師：桐原 隆弘 教授

《コンピュータに関する基礎知識》(全1回 木曜日)
日時：10月11日 18:30～20:00
講師：松本 義之 教授

《流通とはどのような経済活動か》(全1回 火曜日)
日時：10月30日 18:30～20:00
講師：森 幸弘 教授

《コレクター大名朽木昌綱》(全1回 火曜日)
日時：11月20日 18:30～20:00
講師：櫻木 晋一 教授

《アベノミクスにおける雇用問題》(全1回 火曜日)
日時：12月4日 18:30～20:00
講師：素川 博司 准教授

●開放授業

《教養総合D》(全15回 水曜日)
日時：9月26日～平成31年1月16日 14:50～16:20
講師：濱田 英嗣 教授 他

●下関市生涯学習まちづくり出前講座

《ワーク・モチベーション》
日時：11月6日(火) 13:00～14:30
場所：勝山公民館
講師：村田 和博 教授

●市民大学テーマ講座

《下関から地方創生に向けた大学の役割を考える》
日時：10月20日(土) 13:30～15:30
場所：下関市立大学本館2階 I-206教室
プログラム：
第1部 基調講演
講演テーマ『地方創生に向けた大学の役割』
大西 隆 (豊橋技術科学大学 学長)
第2部 パネルディスカッション
『地域のシンクタンクとしての大学の可能性』
パネリスト：佐々木 美紀 (下関市都市整備部 部長)
高橋 義文 (九州大学大学院農学研究院 准教授)
中村 大輔 (福岡女子大学国際文学部 准教授)
コーディネーター：菅 正史 (下関市立大学経済学部 准教授)



●平成30年度 地域共創研究報告会

日時：6月5日(火) 18:30～20:30
場所：下関市立大学 本館2階 I-206教室
報告者：1.「佐久総合病院による福祉的ソーシャルキャピタルを活用した
佐久市シティブロモーションの可能性 -下関市への提言-」
難波 利光 教授
2.「下関市における金融機関のマーケティング戦略
-立地展開に注目して-」
佐藤 裕哉 准教授

●関門地域共同研究会 成果報告会

日時：7月13日(金) 14:00～16:45
場所：海峡メッセ下関 801大会議室
第1部 平成29年度研究報告
報告者：1.産業構造の変化と人口増減の関係について
～関門地域を事例として～
杉浦 勝章 (下関市立大学経済学部 准教授)
2.人口減少下における公共施設マネジメントのあり方について
～先進事例からの示唆～
松永 裕己 (北九州市立大学 大学院マネジメント研究科 教授)
3.子どもの社会的排除に対する地方都市における取組み
坂本 毅啓 (北九州市立大学 基盤教育センター 准教授)
工藤 歩 (北九州市立大学 非常勤講師)
第2部 シンポジウム「健康長寿と食生活のあり方」
基調講演：横山 友里 (東京都健康長寿医療センター 研究員)
パネリスト：東條 尚子 (下関市保健部健康推進課健康づくり係主任)
横山 博司 (下関市立大学経済学部 教授)
宮原 由佳 (北九州市立大学経済学部経営情報学科4年)
久家奈都美 (下関市立大学経済学部経済学科3年)
加藤 沙彩 (下関市立大学経済学部国際商学科3年)
コーディネーター：佐藤 隆 (下関市立大学経済学部 准教授)



●地域インターンシップ関連

《下関市観光ビジネス活性化に向けて道の駅・生産者直売所の成功事例視察》
日付：4月6日(金)
場所：JA直売所伊都菜彩、道の駅むなかた
参加者：濱田 英嗣 教授 学生
《下関フグと日本遺産認定をセットにした下関市内インバウンド需要拡大戦略の検討》
日付：7月2日(月)
場所：下関市内
参加者：濱田 英嗣 教授 学生
《下関市内を対象としたインバウンドアンケート調査》
日付：10月25日(木)、11月2日(金)
場所：下関市内
参加者：濱田 英嗣 教授 学生
《関門地域を対象とした夜景バスアンケート調査》
日付：12月21日(金)
場所：関門大橋、門司港レトロ、めかり第二展望台
参加者：濱田 英嗣 教授 学生



★第1回★ 日時：6月14日(木) 18:00～19:00
場所：下関市立大学 本館3階 II-301教室
「公的年金の持続可能性を考える：『財政検証』をいかに読むか」
講師：横山 寛和 准教授
★第2回★ 日時：12月17日(月) 18:00～20:00
場所：下関市立大学 本館2階 I-201教室
報告1：「近代日本の電力業と地域社会 -ミドル・マネジメントの視点から-」
講師：三科 仁伸 講師
報告2：「現代に生かすラフカディオ・ハーン -再話作品の魅力と可能性-」
講師：三成 清香 特任教員
★第3回★ 日時：12月18日(火) 18:00～19:00
場所：下関市立大学 本館2階 I-201教室
「東インド・カレッジにおけるマルサスの経済学講義
：今日の経済学の講義の「原点」を考える」
講師：荒井 智行 准教授
★第4回★ 日時：平成31年2月8日(金) 14:50～17:10
場所：下関市立大学 本館2階 I-206教室
報告1：「水産物流通・養殖経済のフィールドワーク」
講師：濱田 英嗣 教授
報告2：「貨幣考古学と経済史研究」
講師：櫻木 晋一 教授
報告3：「不安の臨床社会心理学研究」
講師：横山 博司 教授



●下関フグを活用したインバウンド消費活性化検討委員会

第1回検討委員会
日時：8月7日(火) 13:30～15:30
場所：下関市立大学 本館5階 大会議室
参加者：委員20名(オブザーバー含)
報告：1.「大阪市内のトラフグインバウンド消費の状況」
大村美智也 (株式会社西國玄品ふく代表取締役社長)
2.「下関市におけるインバウンドの取り組み」
植田 禎俊 (下関市観光政策課国際観光推進室室長)



第2回検討委員会
日時：10月5日(金) 13:30～15:30
場所：下関市立大学 本館5階 大会議室
参加者：委員17名(オブザーバー含)



第3回検討委員会
日時：平成31年1月10日(木) 13:00～15:00
場所：下関市立大学 本館2階 I-205教室
参加者：委員19名(オブザーバー含)

●第6回 ふく資料室フグシンポジウム

日付：平成31年3月14日(木) 10:30～12:00
場所：唐戸市場 2階大会議室
内容：第1部 講演
I「下関フグを活用したインバウンド対策による地域活性化」
濱田 英嗣 (下関市立大学附属地域共創センター長)
II「フグ消費に関する最新分析と問題提示」
横山 博司 (下関市立大学経済学部 教授)
第2部 パネルディスカッション
「下関フグと地域活性化」
パネリスト：望月 俊孝 (株式会社河久 代表取締役)
佐々木 満 (株式会社みなと山口合同新聞社中国支社 参与)
横山 博司 (下関市立大学経済学部 教授)
コーディネーター：濱田 英嗣 (下関市立大学附属地域共創センター長)



●下関くじらサマースクール

日時：7月28日(土)、8月11日(土) 14:00～15:30
場所：下関市立大学 本館2階 I-201教室 ほか
参加者：市内在住の小学生
内容：講演1.「くじらってどんな生物」
石川 創 (下関鯨類研究室室長)
講演2.「下関とくじらの歴史」
岸本 充弘 (下関市立大学附属地域共創センター委嘱研究員)
資料室等見学



●第11回 鯨資料室シンポジウム

日時：平成31年2月9日(土) 14:30～16:30
場所：下関市立大学 本館2階 I-206教室
テーマ：「捕鯨問題になぜ関心が広がらないのか？」
-森下文二・国際捕鯨委員会(IWC)日本政府代表と本音で語ろう！-
プログラム：第1部 基調講演
「鯨は捕っていいの？悪いの？学生に伝えたい捕鯨の話」
森下 文二 (国際捕鯨委員会(IWC)日本政府代表)
第2部 シンポジウム
「捕鯨問題になぜ関心が広がらないのか？」
-森下文二・国際捕鯨委員会(IWC)日本政府代表と本音で語ろう！-
パネリスト：森下 文二 (国際捕鯨委員会(IWC)日本政府代表)
小島 純子 (下関くじら館館長)
下関市立大学 学生選抜2名 (青崎佑希乃、吉澤真穂)
コーディネーター：岸本 充弘 (下関市立大学附属地域共創センター委嘱研究員)



●鯨資料室聞き取り調査収録

日時：12月7日(金) 14:00～16:00
場所：下関市立大学 本館5階 中会議室
対象者：吉田 幸治 (株式会社吉田総合テクノ環境技術開発事業部企画管理課長)
岩田 在博 (山口県商工労働部産業振興課 産業クラスター推進班 主査 博士(工学))
聞き取り者：岸本 充弘 (下関市立大学附属地域共創センター委嘱研究員)



●鯨資料室寄贈および公開開始(一部)

波田 兼昭 寄贈
寄贈日：4月13日(金)
寄贈品：「羽衣丸乗組員名簿」「鯨のヒゲで作成したコースター」
「韓国公船に依る被拿捕漁船乗組員名簿」ほか数十点
鳥居 邦裕 寄贈
寄贈日：9月6日(木)
寄贈品：「航海日誌」「海図」「遠洋漁業調査報告」全十点



※氏名敬称略

